

台風による果樹倒伏への対応

応急対策

I 落果果実の処理

(1) 落果果実の処理

品種等に分けて拾い集め、傷の程度により選別する。

生食可能な果実はできるだけ、生果として販売するが落果品であることを明示する。

傷がひどく用途のない果実は廃棄する。放置すると病害の発生源となったり、冬季間の野鼠（そ）の餌と なるので土中埋没等を行う。

II 樹体の取り扱い

(1) 倒伏樹への対策

①完全倒伏の対策

樹の立て直しにより樹体の維持が可能であるかどうかの判断は、現時点で葉が青々しているかどうかである。既に葉が枯れている樹に関しては、断根がひどく水分の吸収が不可能となっているため回復は不可能であると考えられる。

また、葉の枯れが一部でとどまっていれば、時間がかかるものの回復は可能である。回復が可能と判断される樹で、根が露出している樹に対しては根群の乾燥を防ぎ、いち早く樹を立て直す。

ただし、支柱がおれて、立て直した樹を固定できない場合はかえって樹体に負担がかかる可能性があるので必ず樹を固定する手だてを講じること。

作業上困難な場合は早急に根部を乾燥から防ぐ対策が必要である。

《例》土をかぶせる。麻袋等、吸湿性のある資材で根部を覆う。散水する…等

②半倒伏の対策

とりあえず枯死に到ることはないと判断されるため、完全倒伏樹の立て直しが終了した後、速やかに立て直すこととする。

③倒伏の立て直しの方法

完全倒伏した樹についてはそのまま不用意に引き起こすと残っていた根も切ることとなるので露出した根が収まる程度の穴を掘り、注意深く立て直す。

この時、結果として、深植えになる可能性があるので地上部の台木長の確保には十分注意する。

(2) 樹体の傷などに対する対策

樹体の損傷、及び落果によるつる抜け、つる折れが多い場合、「ふらん病」等の感染の心配があるのでトップジン M 水和剤 1,500 倍液を早めに全面散布し、感染予防を行う。枝倒れや折損部分の切り口には塗布剤を処理し、病気の侵入を防ぐ。